

1. 3 浸水対策

(1) 浸水被害 と対策の現状

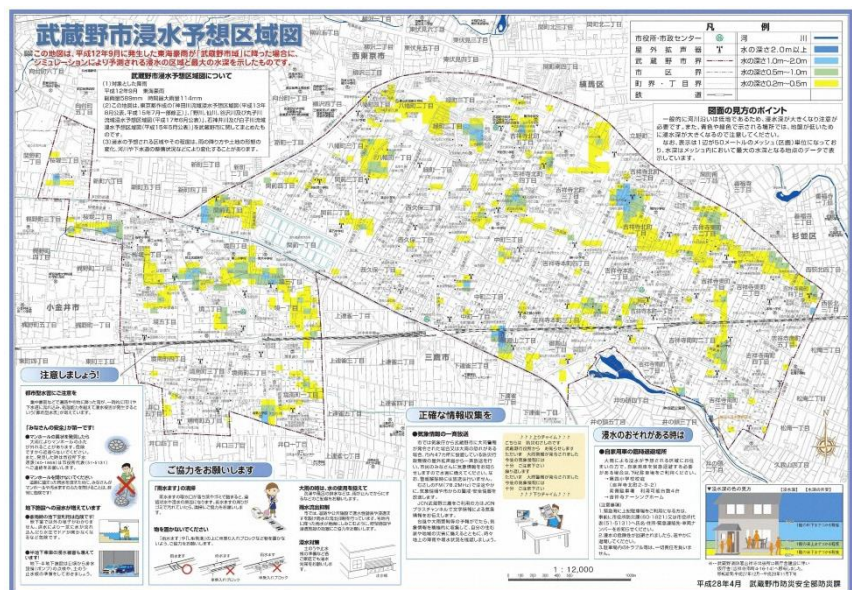
急激な都市化が進み、雨水の浸透域が減少した結果、雨水が地下に浸透することなくそのまま下水道へ流入するようになった。このような中で、近年は地球温暖化やヒートアイランド現象の影響による突発的な豪雨が頻発しており、浸水被害をもたらしている。

特に平成 17 年 9 月 4 日の集中豪雨では、整備水準をはるかに上回る最大 60 分雨量 95.5mm という豪雨を記録し、これまで一部の窪地等に限られていた浸水被害が市内各所で発生した。

このような状況を受け、平成 17 年 12 月に発足した浸水対策プロジェクトは、本市におけるふさわしい雨水排除システムを研究し、浸水対策計画を策定した。

また、平成 19～26 年度の 8 ヶ年計画として、特に浸水被害の大きい善福寺川排水区を対象とする善福寺川排水区総合浸水対策緊急計画を策定し、これに基づき具体的対策として北町雨水貯留浸透施設を設置した。

それでも、たとえば平成 29 年 8 月 19 日のゲリラ豪雨では、最大 10 分雨量 27.0mm（最大 60 分雨量 66.5mm）を記録し、市内各所で浸水被害が発生しており、さらなる対策が求められている。



浸水予想区域図(平成 28 年 4 月作成)

(2) 今後の課題

1) 雨水貯留浸透施設の設置の推進

公有地に既に設置した雨水貯留浸透施設の適切な運用、維持管理を行うとともに、重点地区を定めて各地区の特性に応じた貯留浸透施設の整備等を推進する必要がある。また、民有地における雨水貯留浸透施設設置に対する助成を今後も継続する必要がある。

2) 雨水幹線の整備水準の向上

善福寺川排水区及び神田川排水区は1時間当たり40mm対応となっているため、河川改修等を見据えつつ第二次下水道計画(幹線計画)を着実に推進し、目標とする整備水準(50mm/時)を達成する必要がある。

また、平成28年度に築造した石神井川排水区雨水排水幹線への切替工事を実施し、早急な供用開始を目指す必要がある。

3) 河川との連携により内水被害を軽減

「東京都内の中小河川における今後の整備のあり方について」(平成24年11月)が策定され、河川の目標整備水準が現在の50mm/時から時間最大75mm/時(区部)、65mm/時(多摩部)に引き上げられた。今後は「武蔵野市流域対策実施計画」(平成27年4月)に基づき、流域対策、河川対策、下水道整備等の間で連携、調整を図りながら総合的に豪雨対策を進める必要がある。



市内での浸水被害状況(平成17年9月4日
日北町コミュニティーセンター地下)



市内での浸水被害状況(平成26年7月
24日北町保育園付近)